20nn年度　XX研究YY論文

中高一貫教育校における  
個人単位の探究学習のカリキュラム設計

―テーマ設定の自由度確保と  
それに伴う指導の困難性―

神戸大学附属中等教育学校n回生

0年0組00番

若杉　誠

（指導教員　齋木　俊城）

20nn年度　XX研究YY論文

主題　―副題―

神戸大学附属中等教育学校n回生　0年0組00番　若杉　誠

（指導教員　齋木　俊城）

要旨

本研究は～（以下、論文の概要について説明する）

３年生：200字ぐらい

４年生：400字ぐらい

５・６年生：800字ぐらい（１ページでは収める）

をそれぞれ分量の目安とする。

凡例（必要であればつける）

1.　引用文：引用した史料に関しては、注でその引用箇所を示した（著者 刊行年、頁）。引用文中の〔　〕は本論執筆者が補った部分であり、……は引用文の省略を示す。また、引用文中の（　）は原文中にあった部分であり、本論執筆者の補った部分ではない。

2.　参照した文献：（著者 刊行年、頁）で示した。同じ著者で刊行年が同一の文献が複数ある場合には、参考文献表の順に刊行年の後にa,b,c,……を付した。ただし、論文集に再録された論文や再刊された研究書を使用した場合には、刊行年に関しては、初出年/再刊年で表し、書誌の末尾に初出時の刊行地と刊行年とを（　）内に示した。

3.　参考文献：参考文献は、著者名の50音順に並べる。

※

1．（引用の仕方）については、例えば引用文の省略については

…中略…

…（中略）…

のようにいろいろなやり方がある。指導教員と相談の上、統一すること

2．（出典の示し方）もいろいろなやり方がある。上記の例は本文中に出典を示したいときの書き方。脚注や後注を用いることもできる。

2. 参照した情報の出典は脚注に示す。

2. 参照した情報の出典は後注に示す。

など

3．参考文献の並べ方についても、複数種の並べ方がある。ひとつに決めて、統一すること。

目次

[要旨 1](#_Toc47364466)

[凡例（必要であればつける） 2](#_Toc47364467)

[第 1 章 序論 1](#_Toc47364468)

[第 1 節 近年の日本の教育動向 1](#_Toc47364469)

[第 2 節 中等教育段階における探究学習指導の先行研究 1](#_Toc47364470)

[第 3 節 本研究の目的 1](#_Toc47364471)

[第 4 節 本論文の構成 1](#_Toc47364472)

[第 2 章 探究学習における学習者の意識 2](#_Toc47364473)

[第 1 節 本調査の概要 2](#_Toc47364474)

[第 2 節 調査目的 2](#_Toc47364475)

[第 3 節 調査方法 2](#_Toc47364476)

[第 4 節 調査結果 2](#_Toc47364477)

[第 5 節 考察 2](#_Toc47364478)

[第 3 章 探究学習における指導者の意識 3](#_Toc47364479)

[第 1 節 本調査の概要 3](#_Toc47364480)

[第 2 節 調査目的 3](#_Toc47364481)

[第 3 節 調査方法 3](#_Toc47364482)

[第 4 節 調査結果 3](#_Toc47364483)

[第 5 節 考察 3](#_Toc47364484)

[第 4 章 結論 4](#_Toc47364485)

[第 1 節 まとめ 4](#_Toc47364486)

[第 2 節 今後の展望 4](#_Toc47364487)

[謝辞（必要であれば） 5](#_Toc47364488)

[付録 A 生徒対象への質問紙 6](#_Toc47364489)

[付録 B 教員対象への面接調査の記録 7](#_Toc47364490)

[第 1 節 教諭Aへの面接調査 7](#_Toc47364491)

[第 2 節 教諭Bへの面接調査 7](#_Toc47364492)

[参考文献 8](#_Toc47364493)

# 序論

## 近年の日本の教育動向

ここから本文が始まる。

## 中等教育段階における探究学習指導の先行研究

本文

## 本研究の目的

本文

## 本論文の構成

本文

（章が変わる際は改ページ）

# 探究学習における学習者の意識

## 本調査の概要

本文

## 調査目的

本文

## 調査方法

本文

倫理審査を通過したものは脚注などの形で倫理審査を通過した旨（承認番号も記載）を述べること。

## 調査結果

### 前期課程生徒

本文

### 後期課程生徒

本文

## 考察

本文

# 探究学習における指導者の意識

## 本調査の概要

本文

## 調査目的

本文

## 調査方法

本文

## 調査結果

本文

## 考察

本文

# 結論

## まとめ

本文

## 今後の展望

本文

謝辞（必要であれば）

卒論の指導教員や指導教官以外で相談に乗ってもらった先生や友人など、卒論の研究に協力していただいた人、組織などに対する謝辞を簡潔に述べる。外部から資金を得たり、外部に調査協力をもらった場合は必須。

1. 生徒対象への質問紙

第 2 章で述べた質問紙調査で用いた質問紙を図 1に示す。

|  |
| --- |
| 図 1　生徒対象の調査で用いた質問紙  Kobeプロジェクトに対する意識調査  5年0組　　若杉　誠  　現在私は、卒業研究で生徒のみなさんがKobeプロジェクトにどのような意識で取り組んでいるかを調査しています。お手数をおかけしますが、本調査に協力いただければ幸いです。本調査は所要時間3分程度であり、協力は任意です。……… |

1. 教員対象への面接調査の記録

本付録には面接調査の記録を記載する。

* 1. 教諭Aへの面接調査

本文

* 1. 教諭Bへの面接調査

本文

参考文献

論文内で表記を統一する。主な書き方は以下のバンクーバー方式とハーバード方式がある。詳細な書き方はハンドブックのp.21〜24を参照すること。

バンクーバー方式

文献リストでは，本文中の参照順に文献をあらかじめ並べておき，本文中では出典を示したい記載に番号を付す.

文献リストの書き方の例

[1] 山下文男『津波てんでんこ―近代日本の津波史』.新日本出版社 (2008).

[2] S. Kodama “Tshunami-Tendenko and morality in disasters”, Journal of Medical Ethics. 41 (5), 359-360 (2013).

[3] 「『津波てんでんこ』痛感 提唱の山下さん，逃げ遅れ『反省』 東日本大震災」『朝日新聞』.2011.4. 3，朝刊 30 面.

[4] 山下文男『哀史 三陸大津波―歴史の教訓に学ぶ』.河出書房新社 (2011).

[5] 「東日本大震災体験を生きた教材に 被災地の復興教育，文科省支援へ」『朝日新聞』.2011. 11. 20，朝刊 3 面.

[6] 指田和・伊藤秀男『はしれ，上へ!つなみてんでんこ』.ポプラ社 (2013).

ハーバード方式

文献リストでは，著者名の五十音もしくはアルファベット順(同著者の文献は出版年，タイトルの順)に文献をあらかじめ並べておき，本文中では出典を示したい記載に著者姓(著者が 2 名の場合は「佐藤・ 鈴木」や“Smith and Johnson” ，3 名以上の場合は「佐藤ら」や“Smith et al.”)と年号(同著者が同一年に発行した異なる文献を引用する場合)

文献リストの書き方の例

『朝日新聞』(2011a).「東日本大震災体験を生きた教材に 被災地の復興教育，文科省支援へ」.2011. 11. 20，朝刊 3 面.

『朝日新聞』(2011b).「『津波てんでんこ』痛感 提唱の山下さん，逃げ遅れ『反省』 東日本大震災」 『朝日新聞』.2011. 4. 3，朝刊 30 面.

Kodama, Satoshi (2013). “Tshunami-Tendenko and morality in disasters”, Journal of Medical Ethics. 41 (5), 359-360.

指田和・伊藤秀男 (2013).『はしれ，上へ!つなみてんでんこ』.ポプラ社.

山下文男 (2008).『津波てんでんこ―近代日本の津波史』.新日本出版社.

山下文男(2011).『哀史 三陸大津波―歴史の教訓に学ぶ』.河出書房新社.